

令和5年度全国学力・学習状況調査結果概要と改善策

旭川市立旭川中学校

調査日時：令和5年4月18日（火）

調査対象：第3学年生徒



【学力調査】 本調査は、子ども達の学力や学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証して改善を図るために行われます。子ども達に身に付けるべき資質・能力の一部について調査されたものです。

【質問紙調査】 本調査は、特に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に重点を置いた調査です。

正答率が高い領域とその設問について

国語	数学	英語
【書くこと】の領域で 「目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる」設問	【数と式】の領域で 「数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる」設問、 「はじめの数が11のとき、はじめの数にける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める」設問	【聞くこと】の領域で 「情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる」設問
【言葉の特徴や使い方に関する事項】の領域で 「事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる」設問		【読むこと】の領域で 「『事実・情報』を伝えると『考えや意図を伝える』という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる」設問
【読むこと】の領域で 「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる」設問	【データの活用】の領域で 「四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる」設問	【書くこと】の領域で 「メールの英文を依頼する表現に書き換える」設問

正答率が低い領域とその設問について

【情報の扱い方に関する事項】の領域で 「内容のまとまりで文章が2つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに見出しを付ける」設問	【図形】の領域で 「2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する」設問、「二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く」設問	【書くこと】の領域で 「疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる」設問、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」設問
【我が国の言語文化に関する事項】の領域で 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる」設問	【データの活用】の領域で 「『2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある』と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する」設問	【話すこと】の領域で 「環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える」設問
【言葉の特徴や使い方に関する事項】の領域で 「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」設問		

調査結果の考察から、今後、以下について具体的に取り組みます

複数の資料から得られる情報を、目的に応じて整理し、他者に伝えるべき事柄を根拠を明確にして、わかりやすく文章で表現する力が優れています。一方で、文脈から漢字の同音異義語の表記を識別したり、難解な熟語の意味を類推したりすることができないため、文章を事柄ごとに捉える力が不足しています。そのため、本校では、漢字の成り立ちから、熟語の意味を理解させたり、読書活動も活用しつつ、さまざまなジャンルの文章に触れる機会を設け、形式及び意味段落や段落どうしのまとまりに見出しをつけたりする学習を充実させます。	日常から様々なパターンの問題やその解き方に触れていることで、知識と経験に裏打ちされた「こういった問題にはこう答える」というイメージを会得しており、基礎力・連想力の高さに結びついています。一方で、考察の結果や判断などについて、根拠を明らかにして、論理的に考え、数学的な表現を用いて説明する力が不足しています。そのため、本校では、対話的な学習を通して、結論から逆算し順序立てて解法の構想を立てる学習を充実させ、数学的に表現する言語能力を高めます。	あたえられた指示に従って英文を書き換えたり、対話のながれを理解し適切な英語を考えて書いたりする基礎・基本は身につけています。一方で、英作文が苦手な傾向にあります。そのため、本校では、実際にその場面で学ばべき英語を活用し、互いのパーソナリティはもとより、考えや気持ちを伝え合うエンカウンター的な活動など、身近なテーマで自己表現を行う活動を取り入れることで、英語を活用する当事者意識を高め、主体的に英文を組み立てる学習を充実させます。
--	---	---

【質問紙調査等の結果に反映されていると考えられる本校の教育活動について】

旭川小学校との連携・一貫教育を大切にしながら、

- ①児童生徒の交流活動 ②他者と協力して、考えを広げ・深める「協働的な学び」 ③タブレットを活用した「能動的な学び」
④「考え、議論する」道徳 ⑤生徒のアイデアを活かす「旭中フェスティバル」 ⑥生徒が地域創生の担い手となる「地域学校協働活動」
⑦自立した人間形成を期して展開する「部活動」 など、

これらの実践の中で、組織的で意図的、そして、生徒のやる気や達成感を引き出す生徒指導を重視してきており、集団や地域社会に貢献しようとする精神が徐々に育まれていることを実感しています。また、規範意識も着実に高まってきていると考えております。今後も、生徒の主体性を尊重しながら、制服の改定を含めた校則の見直しや、部活動の地域移行等について、地域・保護者、そして学校が一体となって推進し、いじめを許さない「優しい学校」を目指して参ります。

肯定的な回答の割合が高い設問

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う（100%）【規範意識】
- 人の役に立つ人間になりたいと思う【規範意識】
- 授業でPC・タブレットなどのICT機器を使用している【ICT活用】
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか【主体的・対話的で深い学び】
- 国語の勉強は大切だ【国語】

昨年度と比べて肯定的な回答が大幅に増加した設問

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている【基本的生活習慣】
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う【自己肯定感】
- あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか【学習環境】
- 今住んでいる地域の行事に参加している【地域社会との関わり】
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある【地域社会との関わり】

肯定的な回答の割合が低い設問

- 新聞を読んでいますか【学習習慣】
- 学校の授業時間以外に、普段、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか【ICT活用】

【今後、さらに充実させる取組について】

- ICTを効果的に活用しながら、学校教育ならではの「協働的な学び」を大事にし、「学びの保障」に関する取組を充実します。
- かけがえのない命を自他ともに大切にすることができる逆境に負けない心を育みます。また、これをベースに、いじめを許さない、思いやりと奉仕の精神が息づく「優しい学校」をさらに推進します。
- ICT機器に触れる機会が増えてきたことに伴い、本や新聞を含めて様々なタイプの文章やデータを事実と意見を区別しながら客観的に読み解く力が求められています。そのため、各家庭と連携しながら、読書習慣を促進するとともに、ネット上での情報を効果的に活用する「情報活用能力」や、ネットの適切な使用方法・マナーなどの「情報モラル教育」の学習を充実します。